

情報通信審議会 情報通信技術分科会  
陸上無線通信委員会 基幹系無線システム作業班（第2回）議事録（案）

1 日時

平成25年12月20日（金）14:00～15:00

2 場所

総務省 10階 1001会議室

3 出席者（敬称略）

主 任 唐沢 好男

主 任 代 理 中川 永伸

構 成 員 伊藤 泰成、植田 和典、江場 健司、小笠原 守、岡田 良教、  
小山 祐一、笥 雅光、笠松 章史、川上 明夫、重野 誉敬、  
鈴木 健児、千田 充治、野村 一郎、拮石 康博、福本 史郎、  
藤井 康之、松田 和敏、村上 信高、毛利 貢治、山崎 高日子

オブザーバー 縣 幹哉

事務局（総務省） 森基幹通信課長、中越課長補佐、下地係長、結城官、権田官

4 配付資料

基幹班2-1 基幹系無線システム作業班（第1回）議事録（案）

基幹班2-2 固定系無線システムの高度化等のための検討課題

基幹班2-3 固定系無線システムの高度化に係る委員会報告書の構成（案）

5 議事概要

- (1) 基幹系無線システム作業班（第1回）議事録（案）について  
事務局から資料基幹班2-1に基づき説明が行われ、了承された。
- (2) 固定系無線システムの高度化等のための検討課題について  
笠松構成員から資料基幹班2-2に基づき説明が行われた。

質疑応答における主な発言は、以下のとおり。

○松田構成員

11/18GHzの固定無線システムで、降雨マージンの計算方法について教えていただきたい。

○縣氏

降雨マージンについては、受信入力と CN 比マージンを加味した最低受信入力との差をとった値となっている。

○松田構成員

それであれば、数値があわないのではないか。

○縣氏

修正いたしたい。

○松田構成員

11/15GHz において、ATPC を導入し EIRP を高くするのであれば、伝搬距離は伸びるが、許容できる回線密度が下がり、EIRP を低くすれば、伝搬距離は短くなり、回線密度が上がることを踏まえて検討いただきたい。また、電気通信業務用の降雨減衰の計算を行う際には、公共用で導入されている M 分布のみだけでなく、 $\gamma$  分布も使えるようにしていただきたい。

○唐沢主任

M 分布でまとまってきているのではないか。

○松田構成員

公共業務用については適用できるので電気通信業務用は決まっていない。

○唐沢主任

過去の経緯も踏まえて検討していただきたい。アドホックでは、どの様な議論があったのか。

○笠松構成員

多値変調等を用いて、伝送容量を上げることで一致している。割当周波数内のチャンネル構成については議論がある。送信電力の規定については、山間部・島嶼部といった地域による違いがあるので、それを踏まえて議論を行っている。

○中川構成員

18 ページに今後の検討課題がまとめられている。

- (3) 固定系無線システムの高度化に係る委員会報告書の構成（案）について事務局から資料基幹班 2-3 に基づき説明が行われた。

## 6 その他

事務局より、次回開催については、アドホックの議論を踏まえて実施することとし、日程については、別途連絡する旨説明が行われた。

以上